

(別記様式)

令和元(平成31)年度 府立田辺高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様で組織的な教育活動を個に応じた展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>本年度、本校は「人間力ある人づくり」を目指して教育活動に取り組んできた。多くの生徒は積極的に授業や学校行事に取り組み、学力の向上や自主性、創造力を培うといった点で成果を上げた。</p> <p>進路決定状況では、就職において今年度も内定率100%を達成するとともに、進学においては国公立大学合格者が一昨年度の0名、昨年度の1名から本年度4名と大きく増加した。また工業に関する専門学科で、ものづくりコンテストの全国大会で金賞を取る生徒が出るなど、すばらしい結果を残した。その一方で日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、途中、学習に対する意欲をなくす生徒も一部出てきて、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。また私立大学の合格者絞り込みの影響もあり、私立大学合格者数は伸び悩んだ。</p> <p>部活動においては、陸上競技部とウエイトリフティング部が全国大会に出場、文化系部活動においても自動車部の全国大会優勝を始め、機械工作部や美術部などが全国の大会やコンクールで活躍するなど大きな成果が見られた。ただ、部活動加入率が減少傾向にある。いろいろな機会を使って部活動の意義について理解させることが必要である。</p> <p>また本年度、京田辺市と連携協力に関する協定を締結した。その結果、工業に関する専門学科の地元企業での体験等の事業を実施することができ、職業観の育成を図ることに大きな成果があった。また、市民文化祭への参加など文化系部活動の発表の場の増加による部活動の活性化にも繋がった。</p>	<p>1 基本的生活習慣を確立させるとともに、高い規範意識を持った、規律ある生徒の育成に努める。</p> <p>2 組織的なきめ細かな取組により、原級留置、中途退学、転学等による進路変更の生徒数を減少させる。</p> <p>3 ICT活用の研究を進める等、魅力ある授業を展開し、活用生徒一人ひとりの学習意欲を喚起する。また、個に応じた指導により学力を伸ばす取組を充実させ、確かな学力を育む。</p> <p>4 国立教育研究所の教育課程研究指定校事業を実施する中で、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進する。</p> <p>5 文部科学省の人権教育研究推進事業により、「共生社会の実現を目指した、生徒への支援と生徒の相互理解～人権の視点でつながる学級づくりから」をテーマに研究を行い、共生社会の実現に向けて積極的に社会へ参加し、協働できる人材育成を推進する。</p> <p>6 「人間力の育成」に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。</p> <p>7 地域と連携し、地域創生に寄与する取組を推進する。</p> <p>8 本校教育活動の保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>9 上記の8項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

分掌 教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。 適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。	B	B	B	部長会議については、年間行事計画に基づき、行うことができている。勤務時間管理については、年次休暇の計画的な取得を図るように促すとともに、毎月の時間外勤務時間の時間数について教職員一人一人に対して通知し、時間を意識した勤務を促している。また、中学生に対しての広報等について、まだまだ工夫改善の余地がある。次年度に向かって活かしたい。
		普通科・工業科の特色化の推進と広報活動の充実	普通科・工業科の教育内容の改善と充実に努め、地域や地元企業との連携をより一層進める。また、中学生が入学したいと思う学校となるように広報活動を充実させる。	B			
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に関与しこれを実行	B	B	B	法令・規定に基づいた事務処理については相互チェック体制の中で行うことができている。複雑な修学支援業務についても丁寧に周知を行うなど適切に事務処理ができている。厳しい予算の中で備品等価格の高いものは年度当初では買い控えがちであるが、修繕等で緊急性のあるものは早急に取り組み適切な時期での予算執行ができた。より厳しい予算の中でどれだけ効果的な予算執行ができるかは、引き続き検討の必要な課題でありしっかり取り組んでいきたい。
	文書情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理の実行	B			
	修学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介（掲示・ホームページ） 各種奨学制度の紹介（掲示・ホームページ）	B B			
	維持管理及び学校環境の整備	安心・安全のための施設管理、学習環境の充実に向けた施設・設備並びに備品の整備	施設設備の定期的はもとより、老朽化や緊急性を踏まえた効果の高い改善対策の検討と実行 関係教科・分掌と連携し、必要な備品の充実に 向けた対策の検討と実行	B C			
	財務及び会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保 職員相互のチェック・確認体制の定着化	B B			
教 務 部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し、円滑に実施する。 生徒向けの授業評価アンケートを改訂・実施し、授業改善に役立てる。 公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 「授業を考える週間」の実施方法と内容の改善を図る。 成績不振生徒の状況を常に把握するとともに、教務部として適宜面談にも加わり早期改善を図る。	B C C B C	C	C	授業評価アンケートについては、昨年度からテーマを設け実施するとともに、授業改善に向けたまとめを行った。しかし、改善に役立つ資料にするためには実施時期と分析方法を検討する必要がある。公開授業については参加者を増加させるための方策が課題である。授業を考える週間では、今年度各分掌からの標語を生徒に提示したが、やはり生徒自身
			各種会議	教務部関連会議の改善			

	情報管理	生徒情報の円滑な管理	の内容を充実し、精選する。 校務システムを円滑に運営するとともに、成績処理及び個人成績票発送の適切な管理を図る。	C			に標語を考えさせ、授業について考えさせる方向で来年度は進めていく予定である。教科主任会議では今後新しい教育課程の作成に向けて活発に協議を進めていく必要がある。
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において全教職員が一致した指導を実施する。 生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。(携帯電話による授業妨害を減らす) 問題行動の未然防止を図るため、各分掌、教科と連携する。	B C B	B	B	身だしなみ指導については、多くの先生方の協力のもと実施、一定の成果があると思われる。次の段階として、化粧をさせない指導を進めていきたいと考えている。 問題行動は昨年度よりも増加し、1年生においては落ち着いた状態が続いている。 学校際は文化祭・体育祭ともに生徒会を中心に実施することができ、生徒の感想も概ね良好であった。
	特別活動	自主性、自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。 部活動を活性化させる。 生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	A C B	B		
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するとともに、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。 年間の補講実施を8回以上を目標とする。	B	B	B	進路HR、学習合宿、進学補講、就職指導などの実施により学力向上を図ることができた。今後は、日々の学習活動での意欲付けにつながるよう工夫することが必要である。 年間補講は予定通りの補講を実施した。
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業訪問を実施し就職指導の充実を図る。	B		B	進路ガイダンス、就職セミナー等を実施して、勤労観、職業観の醸成を図ることができた。また、企業訪問を行い、求人数の確保を図ることができ、多くの求人数を確保できた。
		昨年度に引き続き内定率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう、指導の内容について見直すべきものを1項目以上の改善・整理していく。	B	B	B	各種ガイダンス、学習合宿、基礎学力診断、実力テスト(模擬試験)、補講等の時期、内容の検討をすすめることができた。	
		保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。	B			進学、就職における個別の面談、保護者説明会の開催などにより、指導内容について生徒、保護者の共通理解を図ることができた。 保護者向け説明会を全学年行い、

保健部	健康・安全教育の推進	健康な心身の育成を図る。	健康診断を全項目受検させ、「ほけんだより」を毎月発行する。	A	B	B	保護者との連携強化できた。 「ほけんだより」は毎月発行できている。健康診断は粘り強いよびかけによって全員が全項目受検できた。
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A			昨年度を上回る生徒が来室しているが、養護教諭を中心に学年団とも連携し、適切に対応している。
			特別支援教育会議を定期的を開催し、特別支援教育の視点を生かした指導を推進する。	C			2学期以降、配慮を検討しなければならない事案が少なく、学期に1回の会議開催となった。 特別支援教育については、個別の指導計画を作成し始めた段階である。
	校内美化に対する啓発を促進する。	日常の清掃活動が円滑に行えるよう各学期に一回、掃除道具の整備・補充を行う。	B	B	B	清掃用具の整備・補充は、日常的なものに加え、年間を通じて計画的に実施できた。	
			クリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。			A	クリーンキャンペーンでは、保健委員会活動を指導し、美化清掃への意識を高めるよう努めた。学校全体の美化につながるよう大掃除を実施した。
			毎日のゴミ捨てを推進し、ゴミ減量への啓発を行う。			B	毎日のゴミ捨てを呼びかけているが、徹底はできていない。また、依然、ゴミの放置も目立つ。
図書部	学習指導	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	新入生対象の図書館オリエンテーションをゴールデンウィークまでに実施する。	A	B	B	国語科の協力を得て利用活動を実施し、その後の図書館利用につなげることができた。 教科や生徒からのリクエスト、教職員や図書委員によるおすすめ本の紹介をもとに図書・資料を購入した。また、授業で必要な図書・資料は府立図書館・京田辺市立図書館の機関貸出も利用して準備した。 図書館前・職員室前の掲示・展示スペースは有効に活用できた。新着図書の紹介・図書館だよりなどの広報については、より多くの生徒に伝
			購入図書および各種資料の適切な選定を行う。	A			
			新着図書の紹介や校内展示、掲示など読書活動推進に向けた広報を積極的に行う。	B			
			図書館が生徒の『心の居場所』として機能できるように適切な環境・雰囲気作りに努める。	B			

	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞の実施（演劇）	A	A	<p>わり、図書館や本への興味を引く情報発信の方法や内容を工夫する必要がある。</p> <p>図書館の居場所の機能も大切にしつつ、一部の生徒だけでなく、広く多くの生徒に利用してもらえるように働きかけていきたい。・今年度鑑賞した演劇は家族・友情・進路などについて考えさせられる作品であり、生徒たちにとっても印象深いものとなった。鑑賞態度や行き帰りの交通マナーについても概ね良好であった。</p>
総務・人権教育	広報	中高連携と広報活動を充実する。	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学等を再編し実施する。	B	B	<p>第1回学校説明会、第2回学校説明会では各教員の協力を得ながら実施した。今年も、工業科の教員と分掌部長の教員が中学校を訪問し、積極的に中学校へアピールした。また、中学校での進路学習、出前授業、塾主催の説明会、文化系部活動発表会など本校を紹介する機会に各分掌、教科の協力をえながら、積極的に参加した。</p> <p>広報活動では学校ホームページを見直し、より学校を分かりやすくアピールできるように運用している。緊急性の高い情報を速やかに伝えられる体制を整えた。また、広報誌等でも引き続き広報活動を行っていく。</p>
			各教員が制作したホームページをより有効に利用できる体制を整え、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。	B		
	人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通して、人間力の充実を図る。	生徒の人権学習の深化と定着を目的に、外部講師による講演を実施する。昨年度より実施している人権教育研究推進事業を学校体制として取り組む。	B	B	<p>人権教育推進事業を受け、教職員に対して外部講師による研修や、若手の教職員に人権意識を定着するよう学習会を計画し、実施した。</p>
	工業教育の充実と発展	学科間専門科目の学習内容の充実を図ると同時に、各種資格等の取得率向上	具体的な教育内容精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について検討を進める。 問題解決型学習（PBL）の研究に向け工学探	B		<p>各科の教科指導は、概ね計画通りに実施でき、工業部での各学科長間の連絡調整ができた。</p> <p>PBLの研究は、先進校視察や研</p>

工業部		を目指す	究科を中心とし工業4学科で積極的に取り組む資格取得や検定の合格に向け、講習会等のより効果的な指導方法を検討するとともに、計画的に実施する。また、各種競技会に向けた指導の充実とその体制を整備する。	B	B	B	研究会での発表など、最終年度として積極的に取り組んだ。 各コンテストにおいて近畿大会出場、全国大会入賞など成果があった。今後も出場準備など教員が指導しやすい体制を整える必要がある。 各種講習会は、概ね計画通りに実施できた。 インターンシップは、大きな事故等なく無事に終了できた。各学科での企業や大学などの見学、特別講義等の取組みは計画通り実施できた。 積極的に外部講師を活用した講演や実技指導等、計画通りに実施できた。	
		大学や企業などにおける、実際の技術・研究に触れる機会を企画する	大学や企業の見学会及びインターンシップなどを企画・立案・実施する。 外部技術者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	A	A			
第1学年部	学習指導	主体性のある学習態度を育成し、進路実現に向けた基礎学力の定着を図る。	日常の学習の重要性を認識させ、学習時間数前年度比50%増加を目指す。 学習環境の整備のために、教科担当者との連携を図り情報を共有する。それに基づいた生徒への対応と家庭との連絡を行う。	C		C	進路意識を高め、日々の学習への取り組みを定着させるべく働きかけたが、意欲的に学ぶ生徒は半数ほどで、学習や生活習慣に課題を持つ生徒が少なからず見られた。家庭との連携で、取り組む生徒も出てきたが、進路変更を選択する生徒も見られた。 合理的配慮の必要な生徒に対しては、適切な指導が行え、進路実現のために意欲的に取り組む態度が見られた。	
	進路指導			B	C			
	生徒指導 特別活動	規則を守るとともに、自主・自立の態度を育成する。 配慮を要する生徒への支援に取り組む。	規則遵守のため一致した指導・対応を教員が行い、指導件数の前年度比20%減少を目指す。 委員会活動、行事等の役割及び清掃活動などに積極的に参加し、役割を果たさせる。 合理的かつ公平性を保ち、関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密にする。	C B	C C			
第2学年部	進路学習 指導	希望進路の実現に向け、具体的な取り組みをさせる。	ホームルームや補講などを通して、具体的な対応方法を理解させ、実践させる。	C		C	進路ガイダンスなどの取組への参加状況は良くなってきたが、主体的に取り組んでいる生徒は少ない。 具体的に進路先の決定をしている生徒は増えつつあるが、進学希望先、就職希望先が決まっていない生徒がほとんどである。 7名の生徒が追認考査に合格することができなかった。 本校での登校意義を見いだすことが	
		進路目標が明確でない生徒には具体的な目標を持たせる。	進路指導部と連携をとりながら、身近な目標から考えさせる。	C				
		今年度の追認考査により、全て認定させる。	追認担当教諭と連携を密にする。指導に応じない場合は迅速に対応する。	C				
		本校への登校意欲を高め	体験的な取組に積極的に参加させ、進路目標を					

		ることにより、進路変更をする生徒をなくす。	明確にさせる。	C			できず、進路変更をした生徒が11名いた。
	生徒指導 特別活動	研修旅行を初め、学校行事を個々の特性に応じて参加させる。	学校行事に参加しにくい生徒には、面談等を実施し、学年団で連携を取りながら対応を進めていく。	B		C	例年より多くの生徒が研修旅行に参加しなかったのは残念であったが、研修旅行を始め他の学校行事も計画通り実施することができた。
		携帯電話に関わる特別指導を昨年度から半減させる。	携帯電話に付随する弊害を、日頃から一層意識させる。	B		C	携帯電話に関する特別指導の件数は減ったが、使用におけるマナー、SNSの利用など対応が必要である。
		遅刻、早退する生徒を減らす。	無断早退については、面談を実施する。連絡のない遅刻についても回数に応じて面談を実施する。	C		C	ほとんどの生徒は遅刻することなく登校しており、安易に早退することもなかった。しかし、特定の生徒に遅刻が多く改善させることができなかった。
		清掃をしっかりさせるとともに、ゴミの放置を許さない美化意識を養う。	担当教諭と連携をとり、清掃活動に取り組まなければ厳しく対応をする。また、ホームルーム等を通して、学校を汚さない意識を持てるように育てていく。	C		C	清掃活動にはほとんどの生徒が取り組むことができていたが、ゴミのポイ捨てであったり、落ちているゴミを自ら拾うことやより美しくしようと清掃活動に取り組むという美化意識を養うことはできなかった。
第3学年部	学習指導 進路指導	卒業に向けた取組を推進する。 希望進路を実現させる。	追認考査に重点を置き、二次追認までに合格させる。進学補講や検定講習等に積極的に参加させる。 生徒及び保護者との連携を密にし、適正な進路指導の充実を図る。	C B	B	B	二次追認までに合格させることはできなかったが、全員の追認合格をめざし集中させた。 希望進路の実現はおおむね順調であった。しかし、まだ進学を含めて未定者がいるので、最後まで指導の手を緩めない。
	生徒指導 特別活動	規範意識を高め、規律ある学校生活を送らせる。 計画的、積極的に学校行事や特別活動に取り組ませる。	指導の中で、特に規範意識を高める指導をする。 特別指導 昨年度比 50%減:A 30%減:B 微減:C 増加:D 学校行事全般において、他学年の範となる活動をする。 進路実現の取り組みと学校行事や部活動を両立させ、計画的かつ積極的に取り組ませる。	C B B	B	B	55期生徒指導件数 H30：23件27名(2年次) H31：21件22名(3年次) 学校行事等で、リーダーシップを発揮し、満足できる成果を上げた。しかし、規範意識向上は不十分であった。 積極的に進路実現に取り組み、成果を上げた。

評価

- A：十分達成できている（目標以上の成果があった）
- B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）
- C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）
- D：達成できていない（成果がなかった）

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none">○学校経営計画の、それぞれの評価が分かれているのは、先生方が意識を持って取り組んできた証拠である。○生徒指導、部活動の加入率等を分析して学校選択の時代を意識した経営が必要である。特に中学生の「工業」に関する知識がない。今後は中学生に田辺高校の良さをどう広報していくかが、大切ではないか。○高校時代の繋がりは大切である。特に部活動を等して得た人間関係は一生続く。陸上部を筆頭に田辺高校の部活動は上昇傾向にある。今後も高校生が活躍できる学校づくりを目指して欲しい。
次年度のに向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none">○規律ある高校生活を過ごすことのできる田辺高校をさらに充実させつつ、さらに授業改善に取り組み、生徒の望む進路指導を充実させていく。○本校の教育活動を内部にも外部にも、正しく、広く理解してもらうための広報活動について現状に満足せず、さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生にとって田辺高校が、「第一希望」として選ばれるように魅力ある学校づくりを進めていく。○京田辺市との連携を軸とし、地域の声を教育活動に反映させる取組を行う。○身だしなみ指導を強化し、正しい制服の着こなしをすることが進路決定に結びつくことを認識させる指導を行い、帰属意識の涵養を育むとともに、部活動や学校行事等で「つながり」の意識向上を目指す。